2021年3月期通期

決 算 説 明 会







## 2021年3月期通期 業績概要

自動車関連を中心に前半は停滞の影響を受けたものの、売り上げは徐々に回復。
ハードディスクや光ファイバー、半導体向けハイテク関連が堅調に推移し、営業利益はプラス。

02

## 2022年3月期通期 業績見通し

新型コロナウィルスにおける影響で不透明感はあるものの、引き続き受託研磨事業、ハイテク関連を中心に業績好調で推移する見通し。



## 2022年3月期の取り組み

顧客への新しい価値を提供するための活動および当社の取り組み。





## 01 2021年3月期通期 業績概要

## 01-1 業績予想と実績値差異



2021年3月期通期の業績は、2021年2月12日に発表した業績予想を売上および利益面で 上回る結果となりました。

## 業績予想と実績値の差異理由

[百万円]	'21/3通期 前回予想	'21/3通期 実績	増減額	増減率	(売上面)
売上高	7,100	7,361	+261	+3.7%	・製品事業と受託事業の売上は
営業利益	300	359	+59	+19.8%	(利益面)
経常利益	110	301	+191	+173.9%	・固定費の削減による営業利益 ・為替差益が主要因となる経常
純利益*	<b>▲</b> 50	87	+137	-	

增加

- 益の増加
- 常利益の増加

\*親会社株主に帰属

## 01-2 特別損失の計上



## 特別損失の計上について

2021年2月9日付け「特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ」の通り、連結子会社であるMIPOX Malaysia Sdn. Bhd.の工場移転に伴う工場用用地及び建物、構築物及び原状回復費用について減損処理を実施し、61百万円を特別損失として計上いたしました。

また、同お知らせの通り、当該ERPシステムの切り替えに伴う減損処理を実施し、**75百万円**を**特別損失**として計上いたしました。

2021年4月19日開催の取締役会において、2018年3月に長崎県より取得した工場用地の売却を決議したことに伴い、

23百万円を特別損失として計上いたしました。

## 01-3 長崎工場予定について



## 長崎工場建設の取りやめについて

製品事業の拡充・受託事業強化・早い変化に対応できる経営基盤の整備を目的に、長崎工場用地を取得しておりましたが、経済環境の変化及び今後の事業環境が不透明であることを勘案し、延期しておりました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大による社会環境、経済環境の変化の加速に対応すべく、長崎工場の計画を 見直し、長崎工場の建設は取りやめることと致しました。

取得済みである長崎工場予定地は、売主である長崎県に買戻しいただくことで協議中です。

2021年3月期通期の業績は、売上は増加。利益は前年を上回り黒字化を達成。

## 2021年3月期 業績サマリー

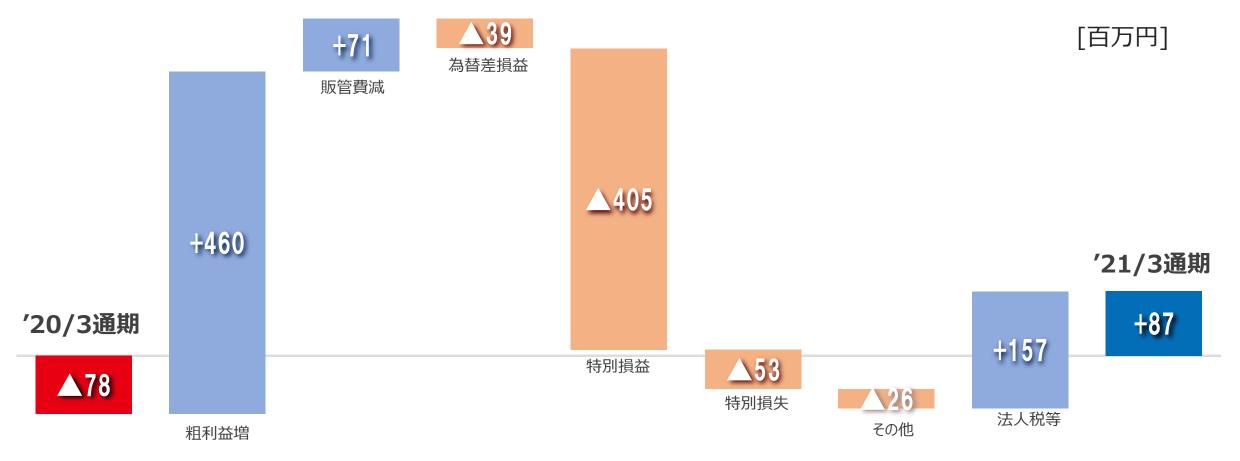
[百万円]	'20/3通期 実績	'21/3通期 実績	増減額	増減率	(売上面) ・ハイテク関連及び受託事業好調により		
売上高	7,338	7,361	+23	+0.3%	売上増加		
営業利益	▲170	359	+529	_	(利益面)		
経常利益	▲165	301	+466	-	・ハイテク関連の製品を中心に売上増加 ・受託事業の好調		
純利益*	<b>▲</b> 78	87	+165	-	・経費削減・製造コスト見直し		

\*親会社株主に帰属

## 01-4 利益\*增減要因(対前年同期比)



利益率の高い製品の売上高構成が高まったこと、および製造コスト低減への取り組み効果により、粗利が改善し増益となりました。

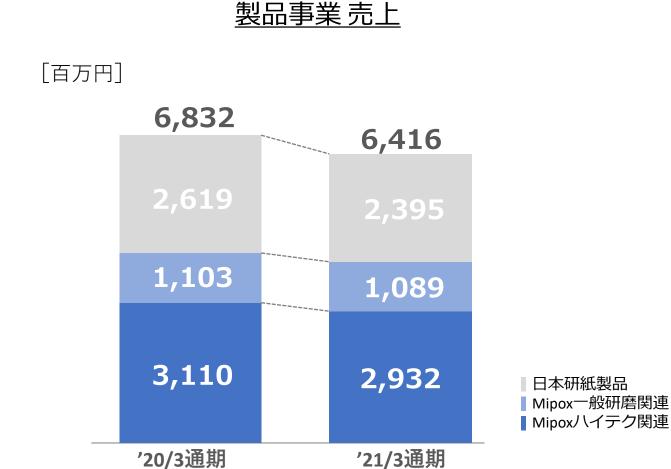


<sup>\*</sup> 親会社に帰属する当期純利益

## 01-5 セグメント別業績 ― 製品事業



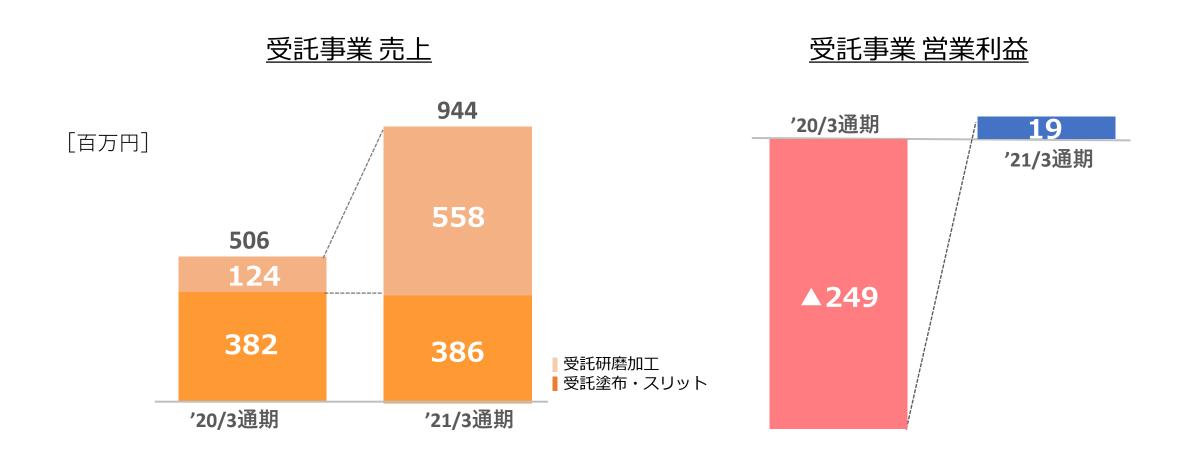
全体的に前年度を下回りましたが、ハイテク関連が伸びたことや製造コストの見直しにより 減収増益となりました。



## 製品事業 営業利益



受託研磨が好調で売上増加、加えて固定費削減等により前年を上回りました。



## 01-7 賃借対照表推移



X	   科 目	'20/3	通期	'21/3	44 25		
分		実績	構成比率	実績	構成比率	増減	
流動資産		7,157	64.9%	7,802	69%	+645	
産	うち現金及び預金	2,737	24.8%	3,020	27%	+283	
の	固定資産	3,876	35.1%	3,498	31%	▲ 378	
部	うち有形固定資産	3,337	30.2%	3,172	28%	▲ 165	
ПÞ	うち無形固定資産	120	1.1%	18	0%	▲ 102	
	資産合計	11,033	100%	11,300	100%	+267	
負	流動負債	3,610	32.7%	3,329	29%	▲ 281	
債	うち短期借入金(社債含む)	1,491	13.5%	1,684	15%	+ 193	
の	固定負債	3,315	30.0%	3,598	32%	+283	
部	うち長期借入金(社債含む)	2,553	23.1%	3,031	27%	+478	
	負債合計	6,926	62.8%	6,928	61%	+1	
	純資産合計	4,107	37.2%	4,372	39%	+ 265	
負債純資産合計		11,033	100%	11,300	100%	+ 267	
	自己資本比率	37.2%		38.7%		+ 1.5%	
	借入金合計	4,044		4,715		+671	

[百万円]





# 02 2022年3月期通期 業績見通し

## 02-1 2022年3月期通期 業績見通し



## 売上増と製造コスト低減などにより増収増益を見込む

▶ 当数字は5/14時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

[百万円]	'21/3通期 実績	'22/3通期 見通し	増減額	増減率
売上高	7,361	7,700	+339	+4.6%
営業利益	359	400	+41	+11.4%
経常利益	301	350	+49	+16.3%
純利益*	87	250	+163	+187.4%

#### (売上面)

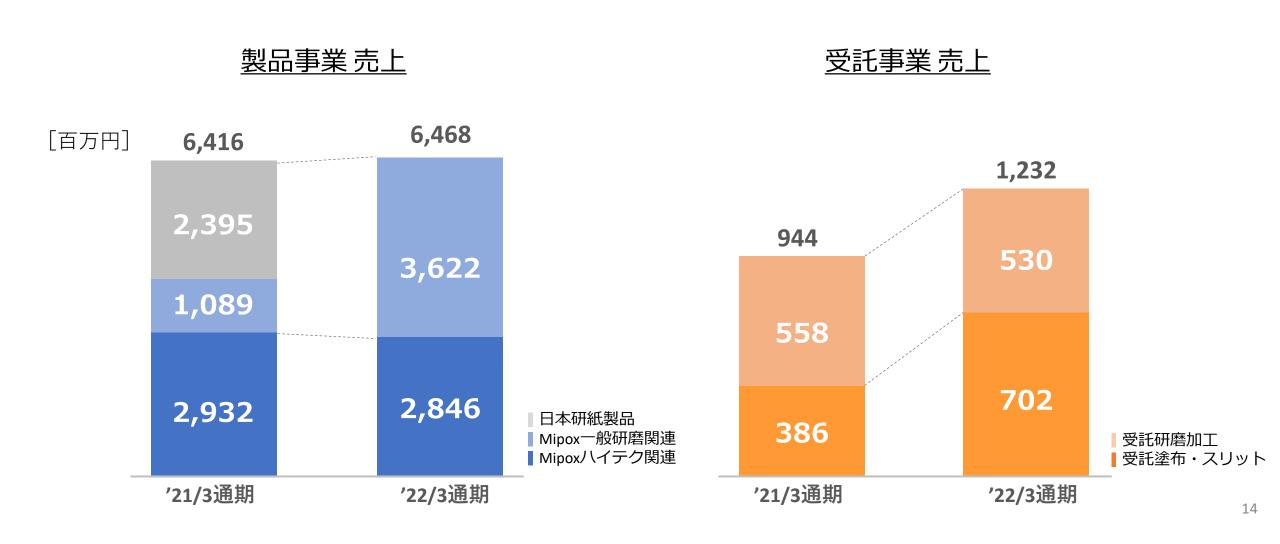
ハードディスク関連及び光ファイバー等のハイ テク関連を中心に、製品事業及び受託事業 の売上が好調に推移する見通し。

#### (利益面)

売上増に加えて、製造コスト低減、組織改編等による生産性向上により、増益となる 見通し。

\*親会社株主に帰属

## 製品事業および受託事業ともに売上増を見込む



	年間配当
2021年3月期	無配
2022年3月期	未定

2022年3月期は現時点で未定。 今後、業績動向や財務状況などを総合的に勘案したうえで決定してまいります。

## mipox

# 03 2022年3月期の取り組み

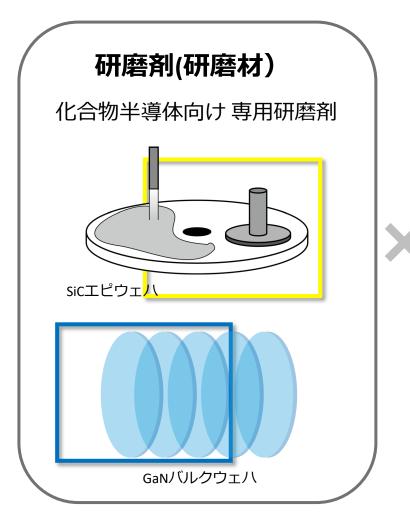
世界情勢(ニーズ・課題など)に対し、次世代半導体にその解決が求められている様々な用途へ Mipoxのコア技術がつながり、エンジニアリングを加速していきます。



## 03-2 エンジニアリング

mipox

Mipoxのコア技術である「磨く」を基軸に、研磨剤各製品・研磨装置・受託研磨に加え、常温接合技術との融合を図り、同市場におけるMipoxの存在価値をさらに高めて参ります。



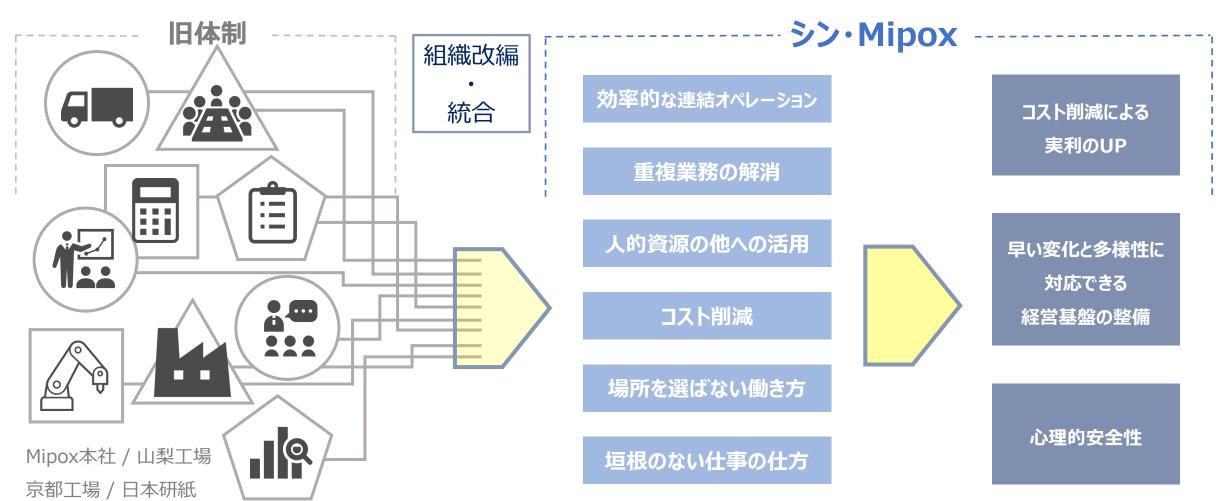




## 03-3 シン・Mipox



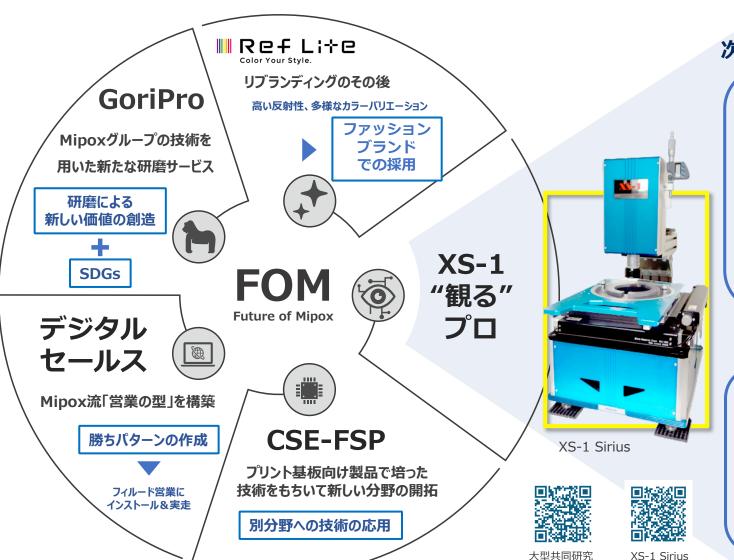
子会社の吸収統合に伴い、大きく組織変更を行いました。これにより重複業務の解消や人材の再分配、働く場所の自由など様々な組織改革を行っています。



## 03-4 Future of Mipox



インキュベーション組織FOM(Future of Mipox)は、新たな製品・サービス・価値を創造していきます。



#### 次世代パワエレ用SiCウエハー製造技術開発

#### 結晶成長 ウエハー量産技術

高品質 低コストを実現

Mipoxは民活型オープンイノベーション共同研究体 つくばパワーエレクトロニクスコンステレーション

(Tsukuba Power-Electronics Constellations(TPEC))内に 設立された材料分科会にて、次世代パワー半導体用 炭化ケイ素(SiC)ウエハーの新しい量産技術の確立を

目指した大型共同研究を開始

結果の一部はXS-1シリーズの最新機種 「XS-1 Sirius」としてリリース

当社を含む 民間企業17社 公的機関3機関

#### 独自の

#### 可視光偏光技術

#### リアルタイム位相 演算処理

半導体結晶ウェハ内部に存在する貫通転位 プロファイルを高感度かつリアルタイムに 可視化するXS-1シリーズの「XS-1 Sirius」 を開発

## 03-5 DX - 製造業としてのデジタルトランスフォーメーション -



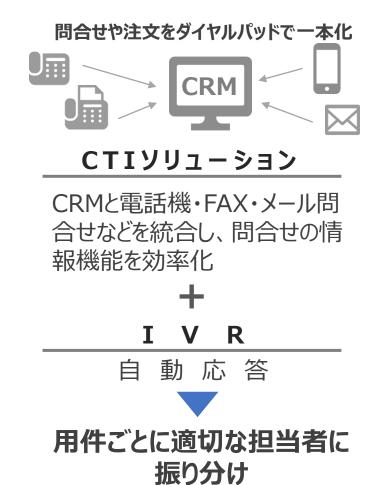
人・もの・情報すべてとつながる工場、スマートファクトリー化を図っています。

デジタルデータ活用により業務プロセスの改革、品質・生産性の向上を継続発展的に実現する工場を目指します。



## 最適化された自律・自動・省エネの工場

IoTで人・もの・情報をつなぎ、AIで集めた情報を分析



コロナ過が終息すれば、今のニューノーマルとはまた違った形のニューノーマルが やってきます。

それは、今以上にコミュニケーションが重要視される時代です。

コミュニケーションは単に「人と人」との関わり様だけではなく、「人ともの」、 「ものともの」、「情報と人」など、様々なものが繋がることを意味します。

我々は製品とサービスで、そのコミュニケーションに不可欠な様々な産業を支えて いきます。

我々のコア技術「塗る・切る・磨く」+「観る」に加え、社内コミュニケーションに変革を起こし、その分野のプロフェッショナルとしてチャレンジし続け、社会や お客様が実現したいことを具現化し、世界をニューノーマルに変えていきます。





# 塗る・切る・磨くで世界を変える

#### IRに関するお問い合わせ先

Mipox株式会社 コーポレート本部 石田 博幸

電話: 03-6911-2300

E-mail: mipoxir\_dept@mipox.co.jp

URL: http://www.mipox.co.jp/



















#### 本資料における注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する予想、計画、戦略などは、いずれも当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、これらは経済環境、競争状況、 需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。